

令和3年12月 8日

江差町議会議長 打越 東亜夫 様

総務産業常任委員会  
委員長 小梅 洋子



### 委員会調査報告について

本委員会に付託の調査事件について、会議規則第78条の規定により下記のとおり報告します。

#### 記

- 1 調査事件 令和3年第3回定例会  
発議第10号 かもめ島周辺の拠点化に関する事務調査
  
- 2 調査期日

令和3年	9月	14日	今後の事務調査スケジュールについて
	10月	7日	関係所管課からの聞き取りについて（まちづくり推進課） 先進地行政視察について
	11月	4～5日	先進地行政視察（秩父別町、留萌市、伊達市）
	11月	26日	先進地行政視察のまとめ 今後の調査の進め方について
	12月	1日	委員会報告書のまとめについて
	12月	6日	委員会報告書のまとめについて

#### 3 調査の目的

平成30年に、かもめ島周辺の歴史・文化資源を活用し、さらに新たな魅力を付加価値させて、町民や観光客などが集い、交流人口の拡大と、江差町の最重要地区のひとつである地区周辺の活性化を目指すことを基本理念とする「北の江の島構想」が策定された。

その後、議会においては、各議員の一般質問や各委員会の事務調査などでも、構想の早期具現化に対し、種々の考えを提示されているが、今日まで、江差町としての基本構想が示されていない。

しかし、本年第2回定例会において「北の江の島拠点施設整備基本構想」策定の予算化がされた。

かもめ島周辺地区の拠点として、何を優先化すべきか。地区全体構想を策定するうえでも、極めて重要な先駆的事業として、拠点化に相応しい事業内容を調査する。

#### 4 調査の結果

調査にあたっては、まちづくり推進課からこれまでの経過について説明を受け、意見交換を行ったほか、先進地視察を1回、委員会を5回開催し検討を重ねてきた。尚、先進地視察における結果報告については、別添資料を参照願いたい。

これら調査結果について、次のとおり意見を付して報告する。

#### 《 現状認識 》

「北の江の島拠点施設整備基本構想」においては、「江差海の駅 開陽丸（管理棟）」に新たに「道の駅」機能を付加しながら観光体験拠点とするような方向性とされている。

しかし現状においては、南ふ頭用地の活用方法が不明瞭な状況であり、現開陽丸管理棟及び駐車場敷地をどこまで活用できるのかが明確化されていない状況も事実である。

南ふ頭用地を活用して、これらの拠点施設を建設することがコスト面において現実的ではないと考察した場合、現開陽丸管理棟前の芝生用地への増築か若しくは、南ふ頭用地の一部を駐車場化できれば、現開陽丸駐車場用地も合わせた大規模な施設建設も可能と思われる。

#### 《 意見 》

このような認識下において、拠点施設整備基本構想が策定途中であることを踏まえつつ、以下の点について、意見する。

- 1) かもめ島を象徴空間とし、なお且つ町内外からの多様な層への誘客を進めなければならないが、呼び込むターゲット層を道南地域に絞り、他の市町村にない特色を持つ、子ども達の夢を叶えるような施設をかもめ島周辺に配置することで、かもめ島を中心とした魅力ある地域としての相乗効果が見込め、更なる付加価値を持たせられると考える。
- 2) 既存のキャンプ場やマリンスポーツ等の体験型観光とリンクさせ、一過性ではなく、家族で一日中楽しめる定期的なイベント開催や遊具等の施設整備を進め、敷地の面積や各種補助金を有効的に活用する等し、決して中途半端な施設にしてはいけないと考える。



- 3) 「寄ってもらう道の駅・海の駅」ではなく、「目的地にってもらう道の駅・海の駅」を目指し、構想策定にあたっては、多様な意見を拝聴しながら取り進めているが、これは施設建設に目途がついたら取りやめるのではなく、常に町内外の利用者の目線に立ち、利用しやすい施設とすべく、継続的に実施していくべきである。
- 4) 当町における観光全般に言える課題は、冬期間の運用である。ハロウィンやクリスマスなどの年中行事でも、これまでにない大々的な飾りつけをする等、地域全体として盛り上げる仕組みを考慮していく必要がある。
- 5) 施設整備にあたって町財政の負担となるのは、イニシャルコストやランニングコストである。企画・設計・建設・運営・修繕などのライフサイクルコストを見据える事が重要であり、効率的かつ戦略的な施設運営や、たば風や塩害等への耐久力が高い維持管理が容易であることを考慮すべきである。

#### 《 総 括 》

平成30年策定の「北の江の島構想」において、開陽丸（マリーナ）エリアでは、整備計画案として2つの構想案が掲載されており、また港湾エリアでは港湾計画や関係機関等と協議しながら今後の利活用を検討していくとある。

今般の「北の江の島拠点施設整備基本構想」策定における事前説明等において、開陽丸（マリーナ）エリアでは多少方向性に変化が見受けられるものではあるが、港湾エリアである南ふ頭の具体的な利活用の方向性は未だ示されていない。この港湾エリアをどのように利活用していくかで、拠点施設整備の考え方が全く異なるものとなる。

翌年、拠点施設整備基本構想案が提示されるものと思われるが、これにより開陽丸（マリーナ）エリア及び港湾エリアの利活用に係る一定の方向性が示されるべきであり、開陽丸（マリーナ）エリアの整備のみに特化するものであれば、現状とあまり変わらない、施設が新しくなっただけのものとなってしまいう可能性がある。

「かもめ島周辺地域」を結果として、どのように整備を行おうとしているのか、未だ明確な全体像が見えない中ではあるが、江差町最大の魅力ある中核地区として、今までにない新たな価値を生み出し、多種多様な人々に利用して貰えるよう、斬新な発想により、江差町にしか無い、期待や喜び、楽しさなどを満足させるような「北の江の島構想」とすべきである。

## 総務産業常任委員会行政視察顛末（概要版）

### 『秩父別町行政視察』

#### □秩父別町教育委員会 塩路次長、末津主幹対応・説明

こども屋内遊技場「キッズスクエアちっくる」は、平成27年度に公園の整備方針とあわせ当該施設の全体像が示された。翌年、平成28年度に実施設計に基づき建物建設工事が行われ、平成29年3月に完成、同年4月1日オープン。

当施設は、開基百年記念塔、秩父別温泉ちっぷ・ゆう&ゆ、道の駅、ファミリースポーツセンター、キャンプ場等の複合的な機能を有する公園の中心施設として位置付けられている。

#### （施設概要）

名称 こども屋内遊技場 キッズスクエア ちっくる  
施設構造 RC造+木造 平屋1階建て  
建築面積 604.25㎡  
延べ面積 590.49㎡  
設計費及び建築費 設計費：26,000千円  
建築費：549,000千円  
財源：過疎債、一般財源  
工事期間 平成28年6月～平成29年3月  
入場料 無料  
駐車場 道の駅又はスポーツセンターの駐車場を利用  
利用対象者 幼児～小学生（保護者）  
管理運営 指定管理 秩父別振興公社

#### （施設紹介）

子育てにやさしい町のシンボルとして、平成29年4月1日にオープン。

季節や天候に左右されることなく、子ども達が安全に元気いっぱい遊ぶ心と体の健やかワクワク成長空間。

高さ8m、床面積約600㎡の空間を、立体的に遊べる道内最大級の大型ネット遊具が屋内全体に張り巡る。ウォールクライミングやチューブスライダー等の子ども達のチャレンジ精神を刺激する遊具や幼児専門コーナーも設置。

年齢や発達段階に合わせた「遊び」を通して、全身を思い切り動かし、人と関わり、家族の愛情や絆を感じながら、「いきる力」を育む事のできる健全な成長空間を目指す。

また、キッズスクエアちっくるを含む「ベルパークちっぷべつ」エリアでは「秩父別温泉ちっぷ・ゆう&ゆ」や「キャンプ場」等も併設されており、家族や仲間とゆっくり楽しんだり、スポーツ団体等の合宿利用もできる。



(担当者による設置後の問題点)

- ・授乳室とおむつ交換場所は近い場所に設置すべき。
- ・玄関が狭い。靴箱の高さが、幼児の手が届かない高さであった。
- ・天井部の照明が少なく、大型ネットの層があるため、中央部が見づらくなってしまった。
- ・キャンプ場を併設しており、ちっくは入場無料で幼児用のトイレもあるため、24時間施設内のトイレを利用しようとする。コロナ禍で入場制限をかけていてもお構いなし。キャンプ利用者のモラル問題。
- ・鏡張りで開放感のある施設としているが、エアコンが無いため、夏場は非常に高温になる。コロナ交付金で扇風機を多数導入したが、危険なため窓を大きく開放できず、無いよりまし程度の効果しか得られていない。換気の問題もある。
- ・立地的に周りは大きい市に囲まれているので、都市部からの利用者が多い。遠くは札幌からも遊びに来る。町有施設はほぼ利用無料で、町としても有料化をするという発想自体がそもそもない。
- ・維持管理費は多額であるが、来てもらえ、町を知ってもらえるだけ良いという考えがある。

(各委員からの意見)

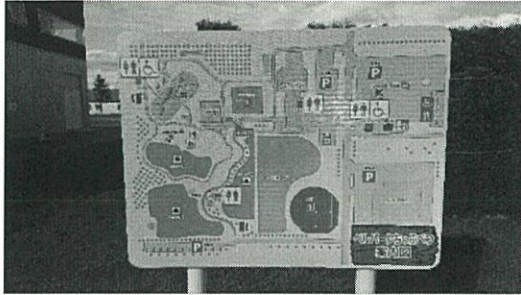
- ・施設2階からの景色は、周りがガラス張りのためよく見える。ただし、夏場は暑そう。
- ・高さ8mの室内に張り巡らされた立体的に遊べる大型ネット遊具（バランス感覚、運動能力の発達）であるが、天井にネットを張ることから床面積はそのままが良いか。
- ・チューブスライダーは4mの高さから螺旋状のチューブの中を滑り降りる迫力満点のワクワク感を味わえるが、プールでの滑り台から水の中への突っ込みを連想した。
- ・クライミングウォール下には分厚いクッションがあり、安心して使用できそう。（筋力、バランス、柔軟性を高める）絶対に必要な機能と思っている。
- ・幼児専門コーナーと運動スペースは、ゆったり空間で、木材をふんだんに使っている。暖かみがあり、床を素足で駆け回れるのが良い。
- ・町外からの利用者が多く、地元の子も達が疎外されたら本末転倒。そのおそれはないか。
- ・近隣にない遊具を設計段階から計画し、町内はもとより町外からの利用者が非常に多く、町外の利用者からも利用料金を頂いていないのが大きな特色となっている。
- ・町外利用者には料金設定をするべきではないか。
- ・屋外には巨大なジャングルジムがあり、高さ13m幅58mの大きさに圧巻。6つの層に分かれ、それぞれの年齢に応じた遊びが出来るように考えられているが、冬場の強風のある江差には不向きと思った。
- ・屋外施設も設置し、幼児から小学校低・中学年まで遊べる施設が作られている。また、近くにキャンプ場を設置、広い場所を確保しており、多くの方に利用されている。
- ・小さな町での立派な施設に感動した。
- ・施設の完成後も、事故防止のための施設改善に心がけている。
- ・特に屋内施設の設置には、多額のコストがかかっており、町の予算規模としては大きな財源負担が伴っている。維持費が多額となっていることが課題となっている。



(その他)

- ・敷地内に町営（指定管理）の温泉施設があり、売店・レストラン・宿泊（合宿所も）・カラオケルーム・子どもの遊び場も設けられ、平日の昼ながら人の出入りが多く、活気があり、広々とした自然の中で、豊かな人々の生活を感じ取ることができました。
- ・子育てに優しいまちづくりの一環として、町長の強い思いがあり設置された。

(施設写真)



施設内案内看板



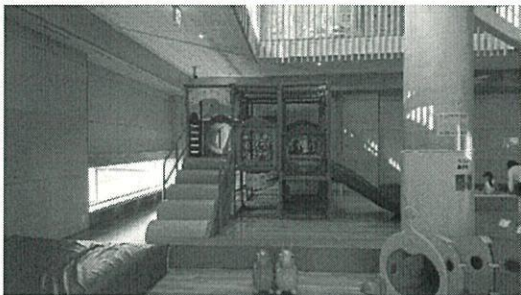
ちっくる施設



末津主幹から施設概要説明



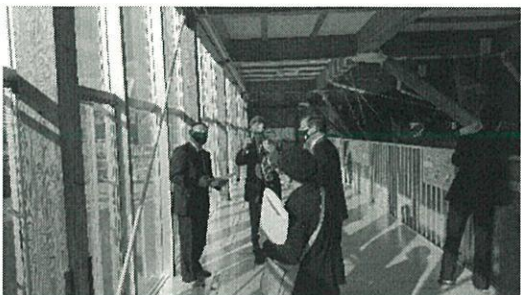
施設案内を受けながらの説明



子ども用遊具



2階からの中央ネット

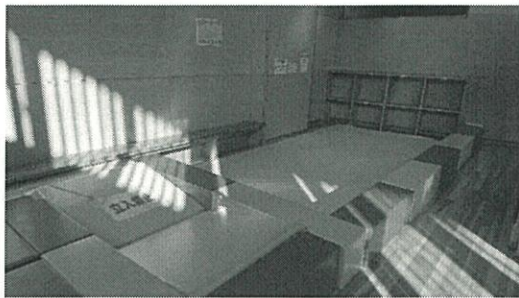


南方面は前面ガラス張り



ガラス張りの利点と欠点説明





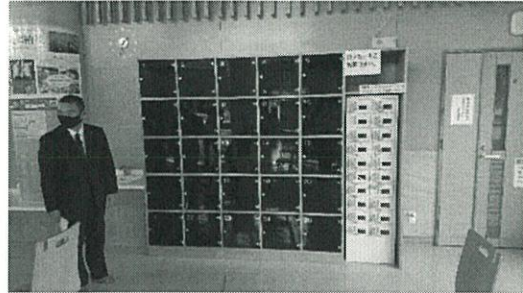
幼児用クッション性の高いマット



幼児用遊具



施設内トイレ



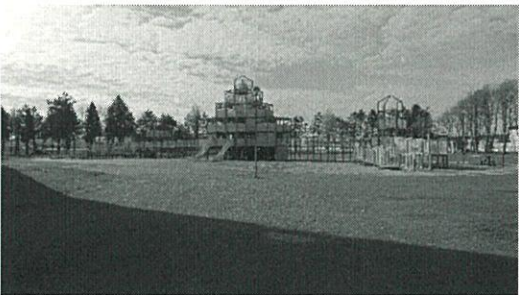
荷物一時預かり場所（鍵付き、無料）



トイレは大人と子ども用を併設



男性用小便器



屋外用アスレチックジム（全景）



鉄骨造で様々な仕掛けがある



# 『道の駅るもい行政視察』

## □現地視察のみ

高規格幹線道路「深川・留萌自動車道」のインターチェンジに近接し、札幌、稚内、旭川の主要都市と留萌を結ぶ国道が集まる交通結節点に位置する立地を生かし、留萌地域のゲートウェイとして地域の情報を発信。

季節毎のイベント開催の拠点として年間を通じた集客を図り、地域の賑わいを創出・点する観光資源や地域特産品の情報発信拠点として地域活性化を担っている。

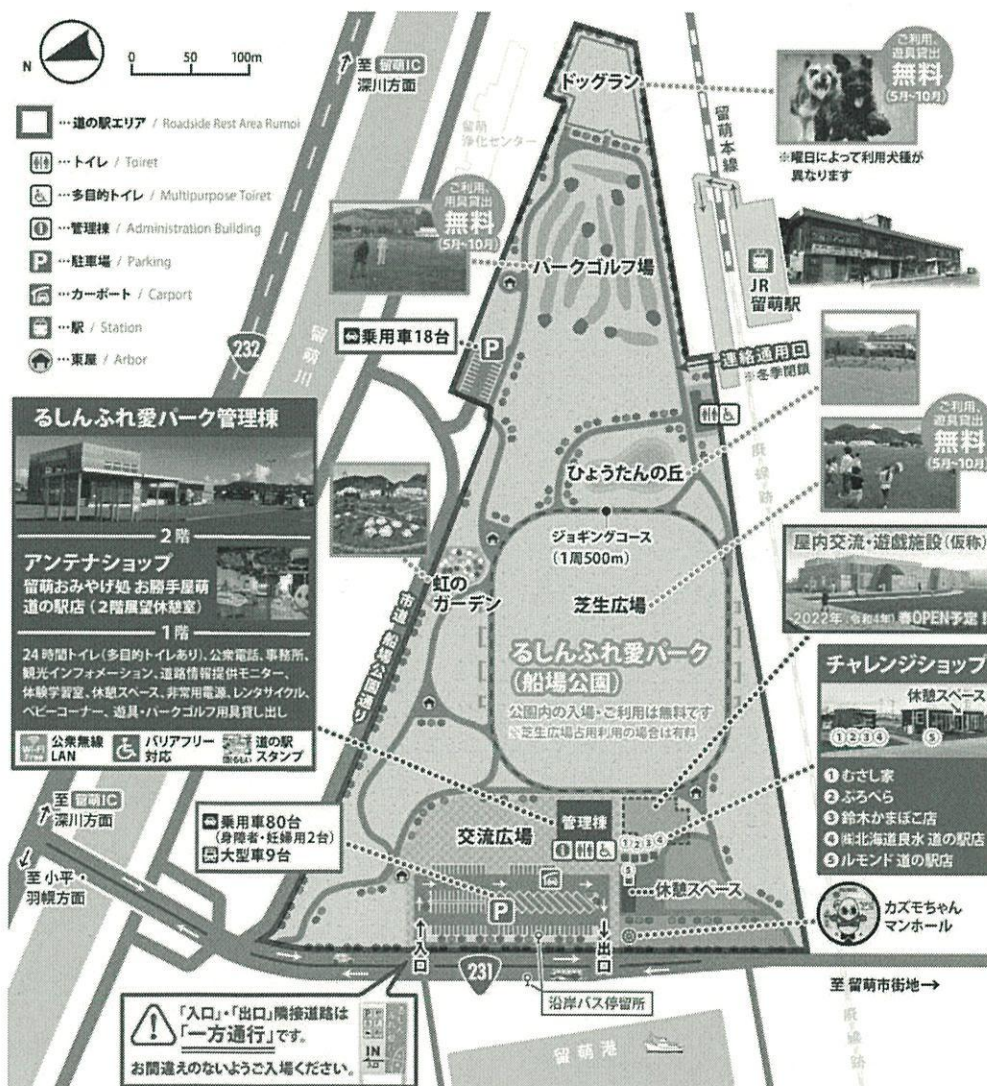
### (施設概要)

名称 道の駅るもい

延べ面積 78,000㎡

施設 駐車場107台、トイレ13器、アンテナショップ、多目的広場、ふれあい広場、ドックラン、観光インフォメーション、休憩スペース、展望休憩スペース、公衆電話、道路情報提供モニター、小型遊具貸出、パークゴルフ場、ベビーコーナー、無料公衆無線LAN、レンタサイクル、非常用電源

その他 現在、屋内交流・遊戯施設（仮称）を建設しており、2022年春にOPEN予定。





(各委員からの意見)

- ・施設の周りは工事中。
- ・施設内1階は事務所、学習室、休憩室、トイレ等。  
売店は2階。特徴はなし。ありふれた売り場。ニシンに興味があり加工品を購入。糠ニシン、おから漬け、明太子ニシン、一夜干し、昆布巻き（昆布の巻き方が違う）、マリネ、切りこみ等。
- ・ニシンはアメリカ産。加工は小樽、増毛、留萌と色々。

(写真)



道の駅るもい全景



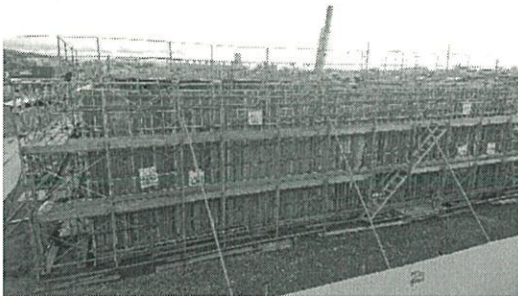
2階売り場



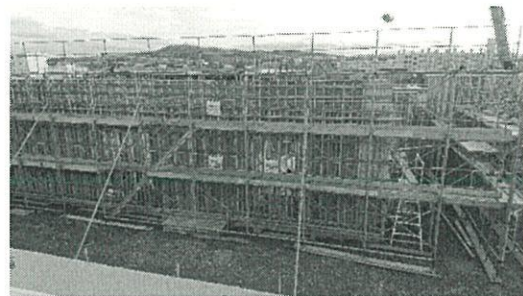
遊戯施設外部イメージ



遊戯ひろば(仮称)イメージ図



2階からの遊戯施設建築状況(背面から側面)



(前面から側面)



## 『道の駅だて歴史の杜行政視察』

### □現地視察のみ

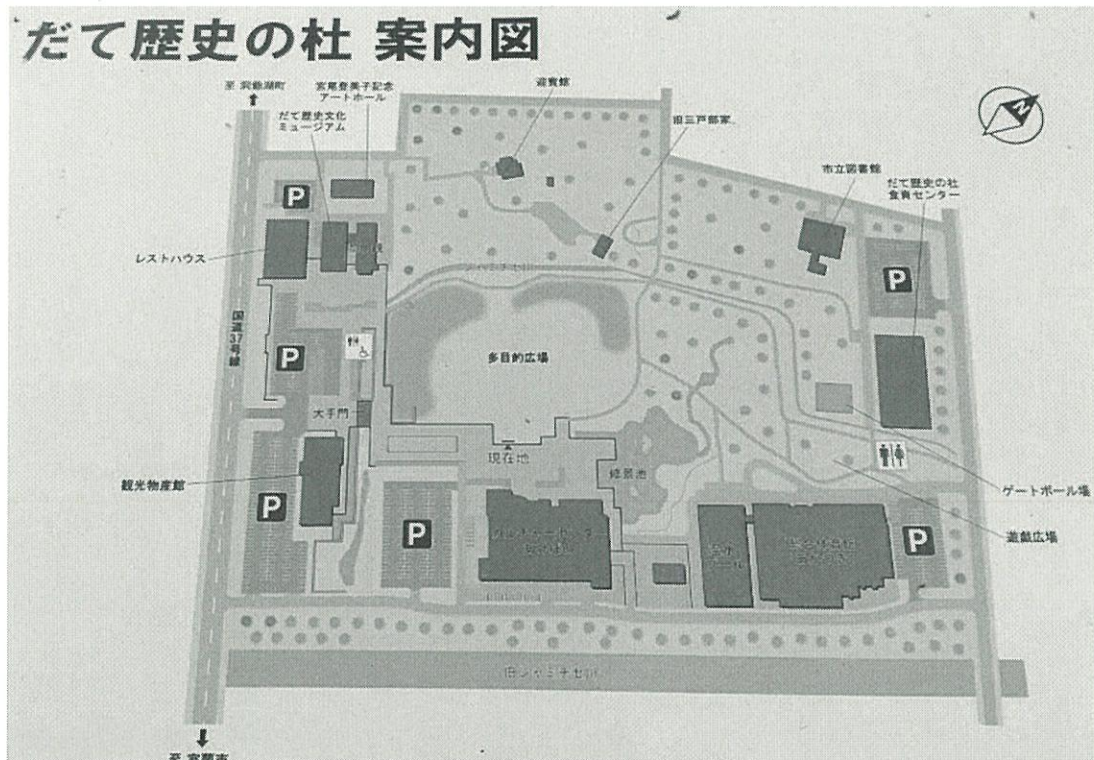
2012年4月に道の駅だて歴史の杜・伊達市観光物産館としてオープン。

伊達市は北海道内唯一の藍の生産地として知られ、また、道内では数少ない刀匠が住み、日本伝統の技を守り受け継いでいる。これらの特性を生かした藍染体験ができる藍工房、刀鍛冶工房を配置した黎明観、文学記念館が隣接。石垣がそびえ立つ歴史の杜総合公園内に位置し、伊達の個性ある歴史文化をアピールする情報発信基地。

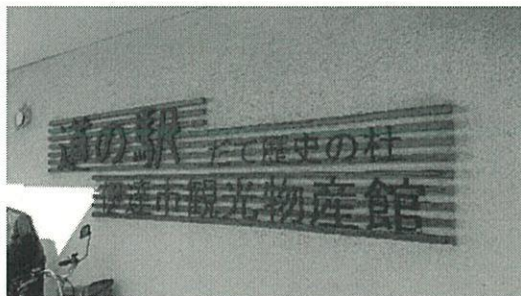
(施設概要)

名 称 道の駅だて歴史の杜

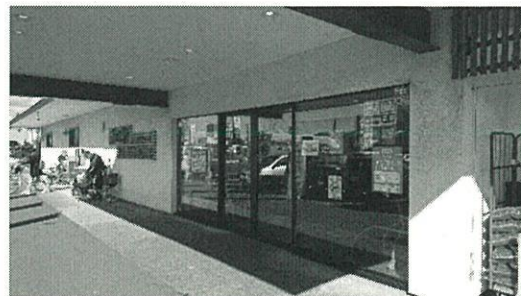
施 設 駐車場 普通車109台、トイレ32器、公衆電話、ショップ、軽食、インフォメーション、AED、Wi-Fi



(写真)



道の駅だて歴史の杜入口案内看板



施設入口





大手門風入口



カルチャーセンター（講堂、大ホール等）



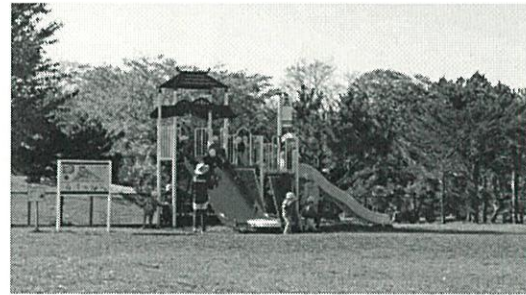
総合体育館（右：温水プール）



だて歴史の杜食育センター



公園内公衆トイレ



公園内遊具施設



だて歴史文化ミュージアム



景観に合わせた造りの民間食事施設



観光物産館売り場



同 左